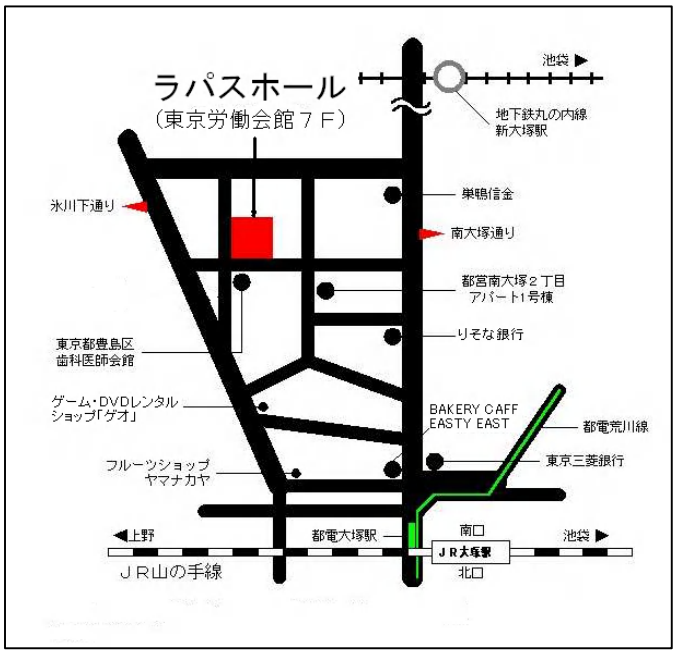
子どもを貧困と格差から守る連絡会議のお誘い

２月３日(金)18:30~20:30　東京労働会館５階地評会議室

2011 年は、未曾有の災害と原発事故により厳しい年となりました。新しい年を、この閉塞状況から少しでも解放される方向にしていかなければなりません。

「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークでは、２月に『震災と子どもの貧困白書』を出版するそうです。震災が子どもの貧困状況をあぶり出し、深刻化した一方で、震災によって子どもの貧困解消につながる施策が後回しにもなりました。子どもの貧困を様々な現象や課題と結びつけて学び、解決のネットワークを広げる仕事を、今年も続けていきたいと思います。みなさんの参加を呼びかけます！



■「不登校・引きこもりと貧困」について学びました

東京総合教育センター相談員長の伊藤史子さんと東村山の市議会議員山口みよさんから、「不登校・引きこもりと貧困～学校・社会と絆が切れた子どもたち～」と題して報告をいただきました。山口さんが引きこもりの青年を支援するようになったのは、そのお父さんから生活保護の相談を受けたことがきっかけ。引きこもりの子どもを家族が抱え込んでいる実態と、３０代４０代になった「子ども」に寄りそう場がないことが語られました。伊藤さんは数十年にわたる不登校や引きこもりの問題から話され、不登校や引きこもりが子どもや親のせいにされていた時代の子どもが今、３０代４０代になっているとして、肯定的に受け止めてあげること、地域でのサポートが必要であることを強調されました。今回も様々な立場の方が参加されたので、とても有意義な話し合いや貴重な交流ができました。

■学校事務職員の村木さんから、教育費の現状と支援について学びます

いよいよ受験シーズンとなりました。学習サポートをされているみなさんもご奮闘のことと思います。

家庭の教育費負担が大きい日本では、経済格差が教育格差を生み、貧困の連鎖となっている指摘がされてきました。学校でも、受益者負担主義が横行し、貧しい学校予算のもと、無償教育にはほど遠い現状です。

学校で、就学援助をはじめ家庭への支援の窓口となっている事務室から、学校予算について、家庭の教育費負担について、支援制度について、具体的に語っていただきます。経済的に厳しい家庭にどんな支援制度があるか、役立つ情報も教えていただきます。

今回も、会場は大塚の東京労働会館（ラパス）です。参加者の交流も深めます。どなたでも参加ＯＫ、初めての方も大歓迎です！

【学習】「学校の事務室から見える子どもの貧困と教育費」

◆学校予算の問題　◆教育費負担の現状　◆支援制度あれこれ

報告　村木　栄一さん（板橋区立志村第二中学校　全国学校事務職員制度研究会会員）

東京都教職員組合（℡０３-３２３０-３８９１　E-mail:tokyoso@zenkyo.org）

東京都教職員組合ファックス番号（０３-３２６２-９７０５）

２月３日の「子どもを貧困と格差から守る連絡会議」に参加します。

お名前	所属、連絡先等